

### 6 六義園



### 8 六義園



元禄8年(1695)、柳沢吉保が、5代将軍綱吉から拝領した地に下屋敷を置き、そこに庭園を造った。御殿を六義館、庭園を六義園と称した。中国の『詩経』にある六義(りくぎ)から名づけられている。回遊式築山泉水庭園で、元禄時代のおおらかな気風を反映した江戸大名庭園の代表的なものだ。



### 6 白山神社



天曆2年(948)、加賀一の宮(石川県)白山神社を勧請したのが始まりといわれる。祭神の菊理姫命(くくりひめのみこと)は縁結びの神として崇められている。6月には、社殿裏の築山に紫陽花(あじさい)が咲き乱れる。

### 7 東京大学大学院理学系研究科附属植物園(小石川植物園)

5代将軍綱吉が幼少の頃、この地に白山御殿と呼ばれる別邸を与えられたのが始まり。貞享元年(1684)、高田御菜園が白山御殿内に移転され、やがてその大部分が御菜園となり、小石川養生所も造られるようになった。明治4年(1871)に文部省、明治10年に東京大学附属植物園となり、現在に続いている。植物は野生種中心に栽培されており、古木などの樹木が多い。樹木には名称の札がつけてあり、初心者にもわかりやすい。



### 5 東大赤門と三四郎池

東京大学の敷地は、加賀藩前田家の上屋敷跡である。赤門は、11代将軍家斉(いえなり)の娘・溶姫(やすひめ)が、前田家に輿入れする際に造られた、格式を重んじた門。赤門は通称であり、正しくは御守殿門といわれる。国の重要文化財となっている。敷地内にある三四郎池は、前田家の庭園「育徳園」の園池が原形である。夏目漱石の小説「三四郎」によって、三四郎池の名のほうが一般的になった。

